

2023年5月 東京地区百貨店売上高概況

2023年6月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 205億円余
2. 前年同月比（増減率）	8.0%（21か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭9.9%（91.3%）：非店頭－9.0%（8.7%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（2023年4月対比±0店）
5. 総店舗面積	729,599㎡（前年同月比：－8.4%）
6. 総従業員数	14,027人（前年同月比：－6.6%）
7. 3か月移動平均値	10-12月 10.3%、11-1月 11.0%、12-2月 14.6%、 1-3月 17.2%、2-4月 14.5%、3-5月 10.7%

【参考】2022年5月の売上高増減率は80.6%

【特徴】

- (1) 5月の東京地区は、売上高8.0%増、入店客数3.3%増と共にプラスとなった。コロナ5類移行を受けて外出傾向が一層拡大し、GWの来街者増、免税売上の伸長等が売上増に寄与した。2019年比では売上高は1.6%減と前月より1.4ポイント改善し、免税売上を除く国内市場も0.8%増と、前月に続きコロナ前を上回る実績となった。
- (2) 商品別では、主要5品目全てプラスとなった。二桁増を記録した主力の衣料品（10.9%増/20か月連続）は、外出気運の高まりからビジネス、カジュアル共に好調に推移し、中旬の気温上昇から初夏商材も良く動いた。紳士服ではジャケット、ブルゾン等の羽織物、婦人服ではブラウスやカットソー、パンツが好調だった。
- (3) 身のまわり品（15.6%増/21か月連続）は、ラグジュアリーブランドの増勢が依然続いている他、外出需要から靴やバッグも好調に推移した。婦人靴ではサンダルやレインシューズが良く動いた。また、脱マスク需要からイヤリングやピアス、ネックレス等のアクセサリが好調だった。雑貨（7.0%増/21か月連続）は、引き続き化粧品がリップやベースメイクアイテム等の好調で二桁増となったが、美術・宝飾・貴金属が高額時計の入荷減による品薄や前年値上げ前の駆け込みの反動等もあり、28か月ぶりにマイナスとなった。
- (4) 食料品（0.8%増/2か月ぶり）は、菓子が手土産やギフトニーズから引き続き好調を維持した。特に母の日では、直前にケーキがよく動き、家族がリアルに集まりお祝いする傾向が見られた。
- (5) 6月中間段階の商況は、前年比5.2%増（6/15時点）で推移している。コロナ前の2019年比では0.1%減と、ほぼ同水準まで回復してきた。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗）
①増加した：16店、②変化なし：0店、③減少した：2店
- (3) 5月歳時記（GW、母の日）の売上（同上/有効回答数13店舗）
①増加した：7店、②変化なし：5店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2023年5月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	120,548,531	100.0	8.0
紳士服・洋品	9,266,858	7.7	10.7
婦人服・洋品	19,288,109	16.0	13.7
子供服・洋品	2,106,242	1.7	4.5
その他衣料品	1,487,141	1.2	-8.6
衣 料 品	32,148,350	26.7	10.9
身のまわり品	21,674,897	18.0	15.6
化粧品	10,556,106	8.8	19.4
美術・宝飾・貴金属	13,545,022	11.2	-1.2
その他雑貨	4,022,368	3.3	7.5
雑 貨	28,123,496	23.3	7.0
家 具	1,139,352	0.9	-8.1
家 電	1,359,137	1.1	29.8
その他家庭用品	2,783,485	2.3	-4.3
家 庭 用 品	5,281,974	4.4	1.7
生 鮮 食 品	3,375,566	2.8	-0.2
菓 子	7,969,669	6.6	7.9
惣 菜	6,301,284	5.2	-0.4
その他食料品	8,673,723	7.2	-3.8
食 料 品	26,320,242	21.8	0.8
食 堂 喫 茶	2,410,611	2.0	9.5
サ ー ビ ス	2,106,900	1.7	1.5
そ の 他	2,482,061	2.1	20.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,405,017 千円	-9.9
従 業 員 数	14,027 人	-6.6
店 舗 面 積	729,599 m ²	-8.4

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、衣料品、身のまわり品は二桁増となった。その他の品目は、化粧品が21か月連続、菓子が27か月連続でプラスとなった一方、美術・宝飾・貴金属が28か月ぶり、生鮮食品が8か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	8.0	—	21か月連続プラス
紳士服・洋品	10.7	0.8	19か月連続プラス
婦人服・洋品	13.7	2.1	21か月連続プラス
子供服・洋品	4.5	0.1	11か月連続プラス
その他衣料品	-8.6	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	10.9	2.8	20か月連続プラス
身のまわり品	15.6	2.6	21か月連続プラス
化粧品	19.4	1.5	21か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.2	-0.1	28か月ぶりマイナス*
その他雑貨	7.5	0.3	15か月連続プラス*
雑貨	7.0	1.6	21か月連続プラス
家具	-8.1	-0.1	2か月連続マイナス
家電	29.8	0.3	8か月連続プラス
その他家庭用品	-4.3	-0.1	2か月連続マイナス
家庭用品	1.7	0.1	5か月連続プラス
生鮮食品	-0.2	-0.0	8か月連続マイナス*
菓子	7.9	0.5	27か月連続プラス*
惣菜	-0.4	-0.0	3か月連続マイナス*
その他食料品	-3.8	-0.3	3か月連続マイナス*
食料品	0.8	0.2	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	9.5	0.2	15か月連続プラス
サービス	1.5	0.0	3か月ぶりプラス
その他	20.8	0.4	4か月連続プラス
商品券	-9.9	-0.1	3か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>